

七ヶ岳？

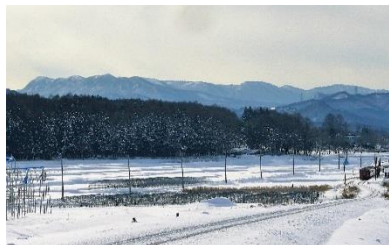
南会津町にある七ヶ岳は、新編会津風土記でも「七峰相並び東西連なる故にこの名あり」と紹介しているとおり、七つの峰が連なる山のはずなのですが、実は左端の一番岳（標高1636m）から右端の下岳（標高1510m）までは11のピークがあるのだそう。



山を眺める位置によってピークの数が違うので、例えば田島市街地からは五ヶ岳に見えたり、会津鉄道の会津荒海駅からは八ヶ岳に見えたりなど、どこから見たら七ヶ岳なのか不思議に思う山なのです。



ちなみにたかつえ高原スキー場の頂上からは7つに見えました。



この位置から右側の阿賀川には、明治17年に現在の国道が開通するまで舟渡しが行われていた「長野の渡し場跡」があり、舟を下りた旅人は次に七ヶ岳の麓を目指して江戸に向かったのです。

七ヶ岳の名前の由来はきっとこの場所にあったのでしょう。